

世界の最先端化粧品技術を競う学会 第24回 国際化粧品技術者会連盟(IFSCC)中間大会にて ポーラ化成工業が「予期せぬたるみ原因」について発表

ポーラ・オルビスグループのポーラ化成工業株式会社(本社:神奈川県横浜市、社長:釘丸和也)は、10月23日～25日に韓国・ソウルで開催される第24回国際化粧品技術者会連盟(以下 IFSCC)中間大会(Conference)において、ポスター発表を行います。

発表する内容は、今後 ポーラ・オルビスグループの商品開発に応用される予定です。

IFSCCには、世界64カ国・総会員数15,000名以上が加盟しており、加盟者は年々増加しています。化粧品技術者・研究者にとって最も権威のある学会であり、これまでの受賞内容は化粧品の最先端技術として応用・実用化され、化粧品市場の発展を支えてきました。

IFSCCには世界大会(Congress)及び中間大会(Conference)があり、世界大会は2年に1回、西暦偶数年に開催されますが、今回開催される中間大会は西暦奇数年に開催され、特に若手の教育育成及び規模の小さな会員国からの参加を促すことを目的として開催されております。

今回の発表は、2015年にスイス・チューリッヒで開催された第23回中間大会の口頭発表部門にて最優秀賞を受賞した内容の継続研究になります。

論文タイトル:『血液成分～顔のたるみの予期せぬ原因を発見～』

英文名: A serum protein, an unexpected player inducing the skin sagging,
and a proposed measure for improving the facial sagging

発表者: ポーラ化成工業(株) 肌科学研究部 大石 貴矢、坂田 綾、宍戸 まゆみ、平河 聡

概要: 一般的に、皮膚の老化は、紫外線などの外部環境が主な原因と考えられていますが、たるみについては、血液中の成分も原因となっていることを新たに突き止めました。

肌の奥、皮下組織では、皮膚支持帯(Retinacula Cutis: RC)という頑丈な線維が張り巡らされて肌を支えており、RCが劣化することによりたるみを引き起こします(*)。一方、皮下組織には、血管が網目状に存在することから、RCに対する血液成分の影響を調べたところ、血中の「酸化LDL」が皮下の脂肪細胞に働きかけてRCに悪影響を及ぼすことが分かりました。本成果により、脂肪細胞や血液成分をターゲットとすることで、新たなたるみの改善につながることを期待されます。

*2015年 IFSCC チューリッヒ大会にて報告

【参考】ポーラ化成工業による過去のIFSCC世界大会・中間大会 受賞歴

2015年	チューリッヒ大会	最優秀賞	(口頭発表部門)
2014年	パリ大会	最優秀賞	(基礎研究部門)
2012年	ヨハネスブルク大会	最優秀賞	(ポスター発表部門)
2008年	バルセロナ大会	最優秀賞	(基礎研究部門)
1998年	カンヌ大会	最優秀賞	
1996年	シドニー大会	優秀賞	
1994年	ベネチア大会	最優秀賞	
1986年	バルセロナ大会	優秀賞	

